

萬世大路 前世代：中世・近世

中世の道



近世の道



出典：「みちのく街道史」 渡辺信夫著

中世の東北の街道

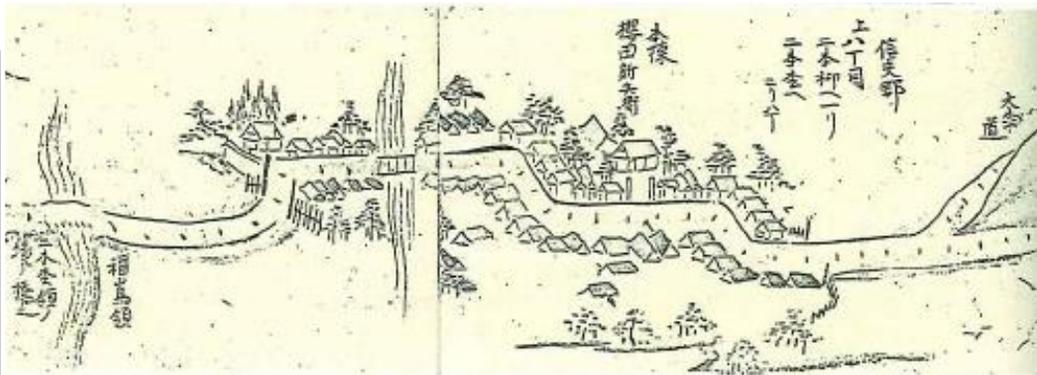
- 武家が地方で勢力を持つようになり、彼らによる道の維持と開発が進む。
- 商業・交通に注目し、中世奥羽の幹道となる奥大道が整備された。
- これらは武士や庶民の道であり、物資輸送のための道となっていた。
- 戦国時代になると、軍事的必要性からも要地間を結ぶ地方道が開発された。
- 米沢～福島間の米沢街道も、そのひとつである。

近世の東北の街道

- 近世の道は幕府や藩の統治下で、江戸もしくは各藩の城下町を軸として計画的に開発された。
- 大名の参勤交代や幕府の役人が通行する幹道(往来)を特に重視し整備が進んだ。
- 各藩は街道の美化や、沿道での商売の許可により、城下の景観・賑わいを創出した。
- 近世中期頃からは、武士や文人に加え庶民の旅も盛んとなり、旅路としても活用されていた。

米沢街道

- 米沢市～板谷～庭坂～大森～八丁目(松川町)間を結ぶ「米沢街道」が天正年間に入って整備されたといわれている。
- 伊達氏が中通りに進出する重要な街道となっていた。
- 同街道は上杉氏の参勤交代の道としても利用されており、庭坂宿は上杉氏の宿泊地となった重要な宿駅であった。
- 1664年頃から、米沢藩では藩の米を米沢街道で福島まで運び、阿武隈川を利用して江戸まで輸送するようになった。



米沢街道



現在の松川町付近

出典：「ふくしまの歴史」福島市教育委員会 出版
資料作成 令和3年2月 福島河川国道事務所計画課